

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おりーぶ瑞穂 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	R6年 10月 26日		～ R6年 11月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31人	(回答者数) 23人
○従業者評価実施期間	R6年 10月 26日		～ R6年 11月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚訓練や作業療法、心理療法等、専門的支援が充実していること。	言語聴覚訓練や作業療法の希望があるこどもは専門的支援を受けられるように調整している。	スタッフの数が少なく受けられないこどももいるため、スタッフ充足を図る。
2	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援を行っていること。	大きい音が苦手な子どもには静かな環境で対応する、動きたい子どもには運動療育を行う等、子どもに合わせて事業所の雰囲気を変えている。誰に何を話したかを職員間で確認し、情報共有に漏れがないように注意している。	今後もこどもの特性に応じた専門性のある支援を行っていく。
3	保護者様が気軽に療育や子育ての相談ができる環境がある。	電話だけでなく、LINEなども活用して保護者の方が気軽に連絡ができるようにしている。	今後も継続して行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	気持ちを落ち着けたい時や、眠たい時に必要な個別空間がないこと。	空間を区切るパーテーションのようなものが無く、また、部屋が一つしかないため、マット等で空間を区切ったとしても、周りのこどもの声が聞こえてきてしまう。	空間を区切るためのものや、1人になれる場所を設ける等の措置を行わなければならない。
2	スタッフの人数が少ない。	運転が出来るスタッフを含め全体的にスタッフの数が足りず、時間を遅らせてもらったり、キャンセルしたり等、利用に支障が出ている場合がある。	スタッフの充足。
3	家族会や研修会等、保護者同士の意見交換や、職員からの情報共有できる場が少ない。	スタッフの不足により、今の業務に余裕がなく、家族会や研修会を設けられていない。	スタッフの充足を行い、こどもが帰った後から家族会を一年に数回行えるように機会を設ける必要がある。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
おりーぶ瑞穂 児童発達支援		R6年 12月 19日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	広々としていて過ごしやすい。 教室とST、OTと個々の特性に応じて使用できている。	土曜日や夏休み等、朝から子供たちが集まり人数が多い時は、スペースの関係上やりたい遊びを我慢せざるを得ない時があるため、集団での遊びを設定する等の工夫が必要。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	6	こどもの特性によって職員が少なく感じることもあるが、通常では適切だと思う。また、必要に応じてスタッフの充足を行っている。	スタッフとの密なかかわりが必要な子どもに対しては、利用時間や曜日をごちからから提案する等、適切な支援を受けられる様な環境を確保しなければならない。 スタッフの充足が必要。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	5	棚や机で空間を区切り、こどもが遊ぶ場とスタッフが作業をする場で明確に分かれている。	入ってはいけなところへ簡単に出入りできるため、もう少し工夫が必要。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	毎日おもちゃの消毒や掃除を行っている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	5	こどもの気持ちを落ち着かせるために、マット等で空間を区切り一人になれる環境を作っている。	スタッフと落ち着いて話せ、子どもが一人になり落ち着けるスペースがあればいいと思う。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	3	月に一度、できるだけスタッフ全員で会議を行い、その場で意見交換や目標設定、振り返りを行っている。	頻回ではないので、振り返りに漏れがある可能性がある。会議の回数を増やす、ノート等で共有する等といった対策をする。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	4	社員が保護者と連絡を取り合い、どうすればいいか考える事ができている。	連絡帳や電話、HUGでのやり取りのみであるため、保護者会を設ける必要がある。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2	月に一度、できるだけスタッフ全員で会議を行い、業務体制やこどもについて意見交換を行っている。	月に一度では漏れがある可能性があるので、会議の回数を増やす、ノート等で共有する等といった対策をする。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3	監査や実地指導は行われている。	第三者による外部評価を行う機会をあまり設けていないので、外部評価を行う必要がある。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	5	研修に参加する機会があるときは、主に社員が積極的に参加している。	あまりないので、あると向上につながると思う。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	2	スタッフ間で意見交換をし、支援プログラムを作成している。	毎日出勤しているわけではないスタッフとは意見交換できていないことがあるので、共有できるように常時話し合う習慣を付ける。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	8	0	スタッフ間で話し合い、一人ひとりの支援計画を作成している。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていきます。
	13 児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	日常的にこどもたちについてスタッフ間で話し合い、また、大事なことや気になったこと等はノートで情報共有している。月に1度、スタッフ全員が集まり会議している。	毎日来ているわけではないスタッフとの共有に漏れないよう、詳細にノートに記入する必要がある。
	14 児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	2	職員はいつでも閲覧でき、確認したいときに確認できるようになっている。会議の際にこどもの支援について認識してもらっている。	支援計画を更新したことをスタッフ間で共有できていないことがあるため、確実に共有するよう心がける。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	標準化されたツールを用いて、こども一人ひとりの特性を鑑みながら確認している。多数スタッフの視点から行動観察している。ST、OTの視点でのアセスメントを行っている。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていきます。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1	毎月の会議等で数人ケースをあげて話し合いを行い、より良い療育を行うために意見を交換している。 話し合った内容を個別支援計画に取り入れて保護者様に公表している。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	4	STやOTのスタッフのアドバイスを聞き、子どもが楽しめる活動を立案している。	皆でどのようにプログラムを進めていくかの話し合いが上手く出来ていないため、話し合いが必要。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	3	社員やセラピストを中心に毎月のイベントを考え、利用者のニーズを取り入れプログラムを変更している。	平日はST,OTなどのプログラムが組み込まれるため、短時間でできるプログラムをより工夫する必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	6	2	一人ひとりのこどもの状況を常に話し合い、こどもの様子を観察しながら個別活動と集団活動のバランスを図っている。	個別活動や集団活動ができるイベントや活動プログラムを増やすなどし、質の向上を図っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	5	スタッフ同士で児童の様子を共有している。	朝礼が必要だと思う。 日が空いて勤務されるスタッフはタイムラグがある為、知らない情報があるときがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4	出来る限りその日の内に話し合っている。	伝えるべきことを記録し、全スタッフ間で共有できたらと思う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	4	児童に関するノートがあり、皆が見られて共通理解が出来ている。	記入し忘れることもあるので、日々の記録を徹底していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	定期的モニタリングを行い、スタッフ間でも話し合い、支援計画の見直しを行っている。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていく。
	24	【放デイのみ】 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	0	0		
25	【放デイのみ】 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	0	0			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	こどもの状況に精通したスタッフや管理職が参画している。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	園や保護者からの希望があれば対応している。また、職員が見学などをし、情報共有を事業所間で行っている。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていく。
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	3	定期的にセンターとの連携を図り、情報共有や助言を受ける等の機会を設けている。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていく。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	園や保護者からの希望があれば対応している。	頻回に行えていないので、イベント等に地域交流を入れるなど、工夫していく。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	1	送迎時、保護者と会う時に事業所での様子を伝え、園や家庭での情報を聞くことが出来る。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていく。
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	6	保護者会等の機会がある。	積極的に機会を設け、研修や情報提供を行っていく。
	32	【児発事業所・児発センターのみ】 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	3		
	33	【児発事業所・児発センターのみ】 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	3		
34	【児発センターのみ】 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。	2	2	必要に応じて保育園や認定こども園、幼稚園、特別支援学校との間で情報共有を行い、連携を取っている。定期的に外部研修に参加している。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていく。	

	35	【児童センターのみ】 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	1	3		
	36	【児童センターのみ】 (自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	1	3		
	37	【放デイのみ】 学校との情報共有 (年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整 (送迎時の対応、トラブル発生時の連絡) を適切に行っているか。	0	0		
	38	【放デイのみ】 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	0		
	39	【放デイのみ】 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	0		
	40	【放デイのみ】 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	0	0		
保護者への説明等	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	1	新規契約の際に、保護者様に直接説明をしている。変更があった場合なども、直接または手紙等でお知らせしている。	今後も継続して行っていく、質の向上を図っていく。
	42	児童発達支援計画 (放課後等デイサービス計画) を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	1	支援計画を作成する際に保護者へモニタリングを行い、保護者の意向を確認している。	直接お話できる機会が少ない為、必要に応じて機会を設ける。
	43	「児童発達支援計画 (放課後等デイサービス計画)」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	支援計画を作成する際に保護者へモニタリングを行い、支援内容について保護者と相違がないよう確認を行っている。	今後も継続して行っていく、質の向上を図っていく。
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1	その都度、こどもに合わせて面談を行い、寄り添っている。	保護者からも要望が出ているので、保護者会を設ける必要がある。
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	4	きょうだい同士でも交流が出来るように調整している。	保護者同士で交流する機会を設ける必要がある。
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	1	LINEやHUG等で気軽に連絡が取れる状況にしている。	今後も継続して行っていく、質の向上を図っていく。
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	HPやSNS、HUGでの通信を活用し、活動概要やイベントの様子等をこどもや保護者に向けて発信している。	今後も継続して行っていく、質の向上を図っていく。
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	鍵が付いている倉庫で管理をしている。また、情報を持ち出さないように留意している。	今後も継続して行っていく、質の向上を図っていく。
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	言葉やジェスチャー、カード等でコミュニケーションを取り、意思の疎通を図っている。また、HUGやLINEを用いて保護者と連絡を取りやすい状態にし、配慮を行っている。	今後も継続して行っていく、質の向上を図っていく。
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	近隣の住民と挨拶を交わしている。	フリーマーケット等で地域に開かれた事業運営は行っているが、イベントに招待はしていない。
	51	【放デイのみ】 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	1	0		
	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	毎年更新されたマニュアルを職員の間で共有し、行事や何も無い日に緊急時を想定した訓練を実施している。	高頻度で実施できていないので、訓練を増やす必要がある。
	53	業務継続計画 (BCP) を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0		
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	1	服薬やてんかん発作等のこどもの状況を資料として作成しており、スタッフ全員が確認できる位置に置いている。会議で情報共有している。	今後も継続して行っていく、質の向上を図っていく。

非常時等の対応	55	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	アレルギーを把握し、医師の指示所に基づく対応をしている。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていく。
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	安全管理を十分に行い、支援している。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていく。
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	こどもの安全確保に関して、新規契約する際に資料を渡し、保護者に説明している。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていく。
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハットが起こった際はレポートを書き、事業所内で共有している。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていく。
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	虐待防止の研修を行い、職員にアンケートを実施することにより、虐待への認識や適切な対応を改めて認識している。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていく。
	60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0	やむを得ず行う身体拘束について、組織内で話し合い決定している。	今後も継続して行っていき、質の向上を図っていく。